

<同時発表>

- ・国土交通省総合政策局、大臣官房
- ・各地方整備局
- ・北海道開発局 ・沖縄総合事務局

<問い合わせ先>

九州地方整備局 企画部
 事業調整官 古木 慎一（内線：3116）
 TEL：092-471-6331（代表）
 092-476-3542（直通）

平成 27 年 1 月 30 日

九州地方整備局

平成26年度「手づくり郷土賞」に九州から3件選定！

今般、全国各地から寄せられた応募の中から優れた取り組みが「手づくり郷土賞」として選定され、うち九州から3件が選定されましたので、お知らせいたします。

なお、この手づくり郷土賞の選定を受け、3月に国土交通大臣認定証伝達式を行います。この伝達式では選定された取り組みの応募者に、認定証及び記念品が授与されます。（当日は報道機関を対象に公開となります。詳しくは別添参考資料（資料－3）をご確認下さい。）

－参考－ 国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページ

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/index.html>

■平成26年度「手づくり郷土賞」選定結果

	選定数（全国）	うち九州
一般部門	15選	3選

■選定された九州の取り組み

部門	所在地	案件名	団体名
一般部門	佐賀県・唐津市	いのち育む豊かな湿地	特定非営利活動法人アザメの会
	長崎県・島原市	芝桜による噴火災害からの復興	特定非営利活動法人芝桜公園をつくる会
	熊本県・山鹿市	川と街道の歴史を元に先祖伝来！手づくりの地域興し（下町惣門会）	下町惣門会

平成26年度「手づくり郷土賞」選定結果

資料-1

■手づくり郷土賞(一般部門):15件

ブロック	都道府県	市区町村	案件名	応募団体名
北海道	北海道	檜山郡江差町	再現！江差の五月は江戸にもない ～”いいこしえ街道”の景観を生かすまちづくり～	江差町歴まち商店街協同組合
東北	福島県	昭和村	室町時代からの伝統技術「からむし生産」伝承とからむし織姫	昭和村からむし生産技術保存協会 昭和村
関東	東京都	北区	北区・子どもの水辺	北区・子どもの水辺協議会 東京都北区
	東京都	江戸川区	東京湾海水浴場復活プロジェクト -東京都区内で約50年ぶりに海水浴場が復活-	認定NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会
中部	愛知県	名古屋市	中川運河水辺再生への挑戦(魅力ある水辺空間の創出)	一般社団法人 中川運河チャンネルアート
	愛知県	豊橋市	豊橋の路面電車(愛称「市電」)を活かしたまちづくり	とよはし市電を愛する会 豊橋鉄道株式会社
	三重県	伊勢市・多気町・明和町・大台町・玉城町・度会町・大紀町	宮川流域エコミュージアム	宮川流域案内人の会 伊勢市・多気町・明和町・大台町・玉城町・度会町・大紀町
近畿	滋賀県	高島市	安曇川河畔林の竹林の保全をエコツアーにした取り組み	湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部
	大阪府	大阪市	ストリートライブ能で美しいまちづくりと地域の賑わいづくり	公益財団法人 山本能楽堂
中国	岡山県	岡山市	庭園都市おかやま 緑と水の道づくり	伊島学区「緑と水の道」整備推進協議会 岡山市・岡山県
四国	愛媛県	今治市	しまなみ海道を活かした自転車まちづくりプロジェクト ～地元根ざした、持続可能な地域おこし～	特定非営利活動法人 シクロツーリズムしまなみ
	高知県	四万十市	四万十川と共存するツルの里づくり事業	四万十つるの里づくりの会
九州	佐賀県	唐津市	いのち育む豊かな湿地	特定非営利活動法人 アザメの会
	長崎県	島原市	芝桜による噴火災害からの復興	特定非営利活動法人 芝桜公園をつくる会
	熊本県	山鹿市	川と街道の歴史を元に先祖伝来！手づくりの地域興し(下町惣門会)	下町惣門会

■手づくり郷土賞(大賞部門):4件

ブロック	都道府県	市区町村	案件名	応募団体名
関東	神奈川県	川崎市	飛森谷戸～里「都」山づくりを楽しもう～	飛森谷戸の自然を守る会
	山梨県	北杜市	オオムラサキの里づくり	特定非営利活動法人 自然とオオムラサキに親しむ会
北陸	石川県	輪島市	道の駅 千枚田ポケットパーク	公益財団法人 白米千枚田景勝保存協議会 輪島市
中部	三重県	多気町	高校生レストラン「まごの店」	三重県立相可高等学校 調理クラブ 三重県多気町

いのち育む豊かな湿地（佐賀県・唐津市）

アザメの会は、唐津市相知町の松浦川にアザメの瀬自然再生事業により氾濫源（湿地）が再生されたのをきっかけに、川と人との絆を深めるための活動を行うため、平成14年に発足しました。

アザメの瀬の生き物とふれあいながら松浦川流域の素晴らしい自然を次世代へ継承するため、魚取りや田植え、水生生物調査、稲刈り、収穫祭などの行事を行っています。これらの活動を通して、昨年度（平成25年度）は、年間17回、延べ524人もの方が体験学習等の行事に参加し、松浦川の自然と触れ合いました。



芝桜による噴火災害からの復興（長崎県・島原市）

当該地区は、平成5年に雲仙普賢岳噴火災害によって甚大な被害を受けました。災害時の全国からの支援に感謝し、元気になった島原を見てもらおうと、平成21年に「芝桜公園をつくる会」を設立し、噴火災害の跡地9ヘクタールの荒野に、芝桜公園をつくる事を目指しました。現在、植栽予定地3haのうち、2.3haに約27万株以上を植栽。月2回行われる植栽・除草作業は、親子連れなど、これまでに延べ11,240名が参加しています。昨年度（平成25年度）に芝桜公園に、遠くは関西地区や九州各地から35,000人もの方が訪れました。



川と街道の歴史を元に先祖伝来！ 手づくりの地域興し（下町惣門会）（熊本県・山鹿市）

平成12年、テレビドラマで下町商店街がロケ地となったことがきっかけで、ガイド付きの街案内ツアー「米米惣門ツアー」の運営を始めました。ツアーは、各店舗の店主らがリレー方式で行なうなど、歴史的地区環境整備街路事業で整備された街並みと地区の歴史を方言を交えながら分かりやすく紹介しています。また、会員同士で情報交換や批評会等を若い階層を交え開催するなど、ツアーの質の向上や後継者の育成にも努めています。年間約5,000人の観光客を受け入れており、学校の社会科見学のコースにもなっています。



平成26年度 手づくり郷土賞 国土交通省大臣認定証伝達式を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。(当日は報道機関を対象に公開で開催いたします。)

- 案件名 : いのち育む豊かな湿地
日 時 : 平成27年3月6日(金) 13時30分から(30分程度)
場 所 : 唐津市役所3階大会議室
(佐賀県唐津市西城内1番1号)
式次第 : ・開会
・認定証及び記念品伝達
・九州地方整備局挨拶
・受賞者謝辞
・閉会(閉会后、記念撮影を行います。)

- 案件名 : 芝桜による噴火災害からの復興
日 時 : 平成27年3月17日(火) 13時30分から(30分程度)
場 所 : 島原市役所 3階 大会議室
(長崎県島原市上の町537)
式次第 : ・開会
・認定証及び記念品伝達
・九州地方整備局挨拶
・受賞者謝辞
・閉会(閉会后、記念撮影を行います。)

- 案件名 : 川と街道の歴史を元に先祖伝来！
手づくりの地域興し(下町惣門会)
日 時 : 平成27年3月3日(火) 15時00分から(30分程度)
場 所 : 山鹿市民交流センター 文化ホール
(熊本県山鹿市山鹿987-3)
式次第 : ・開会
・認定証及び記念品伝達
・九州地方整備局挨拶
・受賞者謝辞
・閉会(閉会后、記念撮影を行います。)

手づくり郷土賞^{ふるさと} 選定委員会

全体講評

手づくり郷土賞は、昭和61年度に創設以来、今年度で29回目を迎えております。今年度も、全国各地から、数多くの優れた取組の応募がありました。各々の地域を良くしていこうという想いが伝わってきて、甲乙付けがたいものばかりでした。

地域活動を通じ、かつての賑わいをとりもどしたものの、河川等における美化活動や緑化活動による自然再生したものが多く見受けられました。その一方で、一つの地域に収まらず、複数の地域で連携して地域興しをするもの、伝統芸能を守る場として社会資本を利活用しているもの等もありました。

現在、本格的な人口減少社会が到来し、自然、社会、文化等の面で多様性に富んだ我が国の国土を構成する各地域が、それぞれの個性と価値を改めて自覚し、これを深めていくことによって、人々が地域への誇りと愛着を強めていけるようにすることが必要であります。手づくり郷土賞を受賞した団体および地域は、まさにこれを体現しているのではないのでしょうか。

今後も、受賞された団体および地域においては、活動の継続および更なる発展にご尽力いただくとともに、本賞の選定事例を全国に広めていくことによって、各々特徴ある地域づくりが進んでいくことを、選定委員会一同期待します。

選定委員講評

齋藤 潮 委員長

地元で頑張っている人たちとその活動にエールを贈るのがこの表彰制度の趣旨だと認識しています。しかしながら、応募いただいたらもれなく表彰するのではなく、その中から一部を選定することになると、これはなかなか難しい。選定の目安は「選考のポイント」として明示されているものの、これらが活動の真価を言い当てるに十分かと問われれば、”いわく言い難し”なのです。

NHK 総合テレビに「キッチンが走る!」という番組があります。プロの料理人が日本各地を訪れ、地元の生産者に会って食材の提供を受ける。食材提供者はその土地の気候風土と相談しながらそれぞれ誇りをもって作物を育て、あるいは漁をしてきた人たちです。料理人は食材を吟味し、組み合わせを工夫し、常識にこだわらない新しい料理を考案する。クライマックスは食材提供者を招いての会食です。自分達の食材にこんな調理法があるなんて考えてもみなかったと驚きつつも、満面の笑顔で新しき味に舌鼓をうつ人々。これまで頑張ってきてよかった、と口々に語ります。

この喜びとはなんだろう。この喜びにはいろいろな意味が込められている。選定にあたって委員諸氏と議論しながら、ここに「手づくり」と「郷土」にかかわる大事な何かがありそうだと、頭の中で考えていました。委員諸氏とともにずいぶん悩んだと申し上げて、受賞なさった皆様をあらためて言祝ぎたいと存じます。

荻原 礼子 委員

このところ、今までは地味な扱いであった地方のまちおこしの取り組みが、活力や夢を感じさせる話題として注目されるようになってきたように思う。たとえば何も無い田舎と思われていた町で、地域の心ある人たちが大事な場所の保全に取り組

む。少しずつ賛同者が増え、皆で知恵を出し合っ
てその場所の魅力を活かしたイベントなどでまちの活性化につなげる、というような人のつながりと地域再生の物語りに時代の目が向いている。

そして今回の手作り郷土賞にノミネートされた活動のどれからも、そのような熱いドラマが感じられた。特に大賞を受賞した活動は、多くの方が相当なエネルギーを長年持続させ、様々な人や組織が力を合わせて、奇跡のような成果をあげた事例であると思う。

そして、これらの事例には、実にさまざまな地域づくりの知恵が詰まっていると思う。協力者を集めるための知恵、魅力的なイベントの知恵、官民が力を合わせるための知恵などなど。

手作り郷土賞を通して、このような知恵が全国にお裾分けされていくとよいと思う。未来につながるお裾分けの輪が広がるとよい。

佐々木 葉 委員

あらためて、郷土一ふるさと、とは何だろうか。自らが住み、暮らす地域に対して愛着や帰属意識をもったとき、「地域」は「ふるさと」になるのであろう。それは必ずしも出身地である必要はない。さらには、そこを旅人として訪れた人にさえも、「ふるさと」という感覚をいだかせてくれること。それが現代に必要な地域づくり、社会資本整備ではなからうか。それは単に、花が美しい、水辺が気持ちよい、という眺めの問題だけでなく、そこで活動する人々のしっかりとした暮らしの自立とたくましさを支えられた自治力に関わる。今年受賞された方々にはそういった自治の力を礎に、現代の様々な社会問題へのブレークスルーを見いだそうとしているように思われた。地域に根ざしながらも広く外の世界に開かれた活動に特にその可能性を感じる事ができた。必然的にネットワ

ークの一部として存在する水辺および生き物に関わる活動。あるモノから始まり、それを支える材料や人に展開する活動。子どもや若年層の自立を支援する活動。活動自体が自己目的化するのではなく、活動を通じて徐々に形成されていく自治力。それこそが真のふるさとを輝かせるものと期待する。

鈴木 伸治 委員

今年度より選考に参加し、改めて全国で地域の自然、歴史、文化を活かした多様な取り組みがなされていることを認識いたしました。選考にあたり、個人的には質の高い活動をいかに持続的にやっているのかという点を中心に評価しました。受賞例のみならず、選にもれた活動においても、年間百を越える会合やイベントを何年間も続けているような団体が幾つもありました。私自身もまちづくりの活動に参加しており、その経験から見ると、こうした活動を維持しているエネルギーは驚異的であり、取り組まれる方々の情熱には改めて敬意を表したいと思います。また、こうした活動を維持するためには資金の獲得も重要であり、税金に頼らず、様々な工夫により、活動を維持している例には感心させられました。社会資本の維持管理に関するような活動では、その活動が管理者や税金によって支えられているようなケースも見られます。しかし、今後の社会状況を念頭におけば、住民中心のボランティアによる活動だけでなく、企業や団体など多様な担い手が様々なアイデアを持ち寄って自立的に、持続的に活動するケースも増えてくるのではないかと思います。応募者の皆様の今後の活動の一層の発展を祈っております。

関 幸子 委員

地域再生、地方創生の重要性が認識されていま

すが、手づくり郷土賞に応募された地域の取り組みこそが、地方創生に繋がっていくと感じました。受賞された地域だけでなく応募された全ての取り組みは、住民が自らの目線で、地域の資源を活かしてより一層魅力ある郷土にしようとする主体的なものであり、地域の課題を解決するまちづくりそのものだからです。例えば、花の植樹や河川の清掃、湖の再生、里山の保全等の景観・環境整備そして高校生のレストラン運営、地元食材による学校給食等、事業は多種多様であり、同時に数十年にわたる活動で大きな流れになったものばかりです。

手づくり郷土賞の存在は、応募や受賞によって、地域に気づき、地域の個性が育かれ、地域での多様な連携や協働事業が進むという効果にあります。賞は、小さな蕾が大きく花開くように、人々が一緒になって汗を流すきっかけをつくることになっていると言えるでしょう。

今回の選定作業の中で、人口減少と高齢化が進む中で、暮らしを豊かにし、心を耕し笑顔を作り出すためには、足元の小さな活動の大切を改めて認識しました。最後に、受賞されました地域のご活躍と発展を祈念致します。受賞おめでとうございます。

田中 里沙 委員

受賞者の皆様、誠におめでとうございます。今年も多数の応募をいただき、各地域の熱意あふれる活動から、大きな刺激を受けました。活動内容は、歴史、規模、時間軸などが多様で、審査員の間ではその基軸に関して意見が分かれ、時には白熱した議論が広がる審査会となりました。私自身、すべての地域の現場をよく知るわけではなく、資料や現地視察を得た方々からのお声から判断するところもありましたが、かかわる方々が力をあわせてアイデアを出し合い、楽しく、地道に、着実にその輪を広げながら継続している点に敬意を表したいと思います。強い目的意識から生まれた企

画もあれば、少しでも地元のためになればという小さな気持ちから始まった企画もあるようです。日本には各地に素晴らしい資源(=社会資本)が存在し、地域の人々のきめ細やかな感性によって磨きがかかっています。手づくり郷土賞に接し、イベントやワークショップに参加をした人は、地域に一層の愛着を持ち、また次世代も確実に育てているのだと感じます。水辺空間、海道、竹林、里山、港湾、路面電車など、社会資本を活かした郷土づくりは、魅力的な観光資源にもなり、益々の注目を集めるであろうと期待します。

森反 章夫 委員

地域住民の創意工夫が漲る活動によって、道路、河川/河川敷などの社会資本の均質な表情に地域独特の味わい・色合いが与えられる。さらには、地域住民の活動の場所という新たな社会資本の社会的機能、役割が明確になる。その結果、社会資本の均質な空間がまさにその「土地に固有の場所」へと緩やかに変換していく。この変換における固有の場所性の強度を創り出すのは、地域住民の営みであり、それを支援する地方の担当行政の度量であると思われる。公民協働の形とその帰結として、道路・河川・河川敷などの「公有地の地域による領有化」が「手づくり郷土賞」の大切なコンセプトであると再認識させられた。

心に残る案件がある。例えば、「中山間地域の持続可能な地域づくりのモデル」として応募された福島県昭和村の「からむし織」伝承技術である。この無形文化財の保護活動と「道の駅」との連携がどのように深まっていくのかが問われている。中山間地域の活性化は重要な国土形成のテーマである。原材料を持続的に栽培するための環境の維持と「社会関係資本」として織物技術の伝承の仕組みなど、今後の適確な取り組みとその持続に期待したい。

平成26年度 手づくり郷土賞

目的

全国各地において、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として再認識し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりに成功している事例が数多く見受けられます。

このように、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で个性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。

部門

手づくり郷土賞(一般部門)

募集対象

手づくり郷土賞(大賞部門)

地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果

選定のポイント

手づくり郷土賞の選考は、以下の視点に着目して行われます。

- ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫
(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成等)
- ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性
(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等)
- ③地域づくりへの成果及び波及効果
(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等)
- ④今後の活動の継続性・発展性
(住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等)
- ⑤他の参考となるような先進性・先導性
- ⑥その他(上記以外の特に優れた内容)

- ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫
(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成等)
- ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性
(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等)
- ③地域づくりへの成果及び波及効果
(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等)
- ④今後の活動の継続性・発展性
(住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等)
- ⑤他の参考となるような先進性・先導性
- ⑥その他(上記以外の特に優れた内容)
- ⑦社会資本の地域への定着状況
(地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に活用等)
- ⑧活動の継続状況
(規模を広げながら着実に継続している等)
- ⑨活動の発展状況
(新たな取組を創出している、他地域へ波及している等)

応募団体

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体(都道府県、市区町村)との共同で応募することができます。

選定委員会

委員長： 齋藤 潮	東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授
荻原 礼子	結 まちづくり計画室 代表・まちづくりプランナー
佐々木 葉	早稲田大学創造理工学部 教授
鈴木 伸治	横浜市立大学国際総合科学部 教授
関 幸子	株式会社ローカルファースト 代表取締役
田中 里沙	株式会社宣伝会議 取締役副社長 兼 編集室長
森反 章夫	東京経済大学現代法学部 教授
瀧口 敬二	国土交通省総合政策局長

※ 詳細については、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページをご覧ください。
(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/te dukuri/index.html>)